

# 南の躍動

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実



ショチョガマ(龍郷町)

6月号 (No.2)  
平成29年6月26日  
大島教育事務所

## 信頼される教師，業務改善に取り組む学校を目指して

私たち教職員は子どもたちを指導する立場であり、範となるような言動が求められます。また、保護者や地域からの信頼がなければ学校に対する理解や協力も得ることはできず、成果を残すことも難しくなります。そのため、不祥事根絶に向けた各学校の取組をより実効性のあるものにしていくことが求められます。

さらに、子どもたちと向き合う時間を確保するとともに、ワークライフバランスを保つために日頃からの働き方についても一人一人がしっかりと考えるなど、各学校では業務改善に向けて積極的に取り組みましょう。

### 不祥事根絶に向けた取組

- 体験（ロールプレイ等）を取り入れた研修の実施
- ケーススタディ研修の実施
- ハンドブック「信頼される教職員・学校を目指して」の定期的な活用と記入
- サービス個人ファイルの作成
- 「不祥事根絶に向けた研修に活用可能な資料（CD-R、DVD-Rを平成28年12月に各学校に配布）」の計画的な活用

「うちの学校から絶対に事故を起こさない」という強い思いをもちましょう。

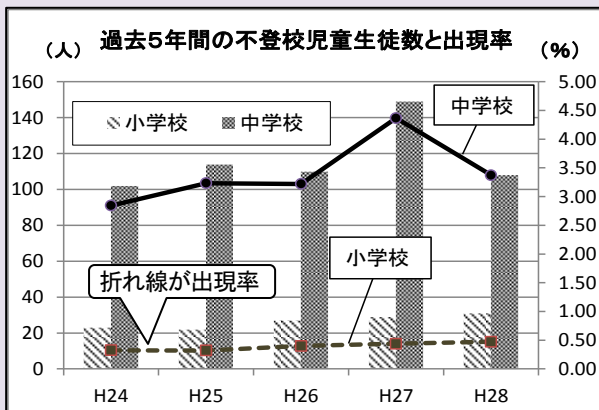


### 業務改善に向けた取組

- 給料日等を活用して、原則、月1回の「定時退校日」を設定
- 「定時退校日」を「部活動休養日」として設定し、部活動の適正化を推進
- 改善に向けた3つの視点（「学校の業務改善推進委員会（県教委設置）」の提言）
  - ・ 「簡素化」…報告物や会議，研修会等の見直し，縮減による業務の簡素化を図る。
  - ・ 「効率化」…教職員の指導法，事務処理能力等の資質向上による業務の効率化を図る。
  - ・ 「意識化」…教職員の負担軽減につながる業務改善の普及活動を通して意識化を図る。

## 不登校の未然防止と再登校に向けた取組の充実を！

大島地区の不登校の状況は、グラフから分かるように、小学校で少しずつ増えており、中学校は昨年度減少しましたが、100名を超えています。そこで、昨年度地区内の学校で**成果を上げた不登校の未然防止，再登校に向けた取組**の一部を紹介するので、各学校では是非参考にしてください。



### 学習支援・進路相談

- ・ 個別のプログラムを作成して登校時の学習支援を行うことで、学習への不安が徐々に解消され欠席が減った。
- ・ 高等学校の体験入学に参加させたことで、将来の目標をもつことができ、登校するようになった。

### 保護者への啓発

- ・ 遅刻や欠席により学習できなかった内容を知らせることで、保護者の意識が変わり、登校につながった。
- ・ 担任とS S Wが連携し、子どもの不登校に悩んでいる保護者を支援することで、登校につながった。



### チームによる役割分担

- ・ 担任とS S Wが情報を共有して、継続的に家庭訪問を行うことで、本人や保護者との関係づくりができた。
- ・ 生徒指導主任を中心とした不登校対策会議の場でS Cが該当児童との相談結果を提供することで、不登校の背景を共有し、効果的な支援を行うことができた。
- ・ 別室で、学年職員や管理職が分担して教育相談や学習支援を行うことで、登校・学級復帰につながった。

# 奄美のすばらしい自然を生かして



奄美群島の世界自然遺産登録に向けて気運が高まっている中、地区内の小中学校でも、環境教育の一環として奄美の自然保護・動物保護に熱心に取り組んでいる学校があります。その中から2校を紹介します。



ウミガメを放流する子どもたち

(平成28年度全国野生生物保護実績発表大会で、環境大臣賞受賞)

## 奄美市立屋仁小学校

平成24年度からウミガメの卵の保護、孵化、放流活動をしています。ウミガメが産卵をすると、波でさらわれたり、他の動物に食べられたりしないよう、安全な場所へ移し、孵化するまでの約60日間見守ります。低学年の子どもたちは毎日、「ウミガメさん、早く出てきてね。」と声をかけています。孵化すると、保護者、地域の方々と一緒に、奄美に伝わる別れの曲「いきゅんにゃかな」を歌って子ガメを海へ放流します。



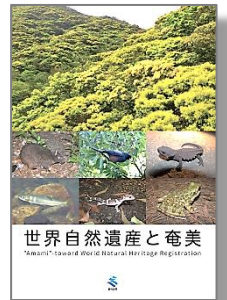
アサギマダラを放蝶する子どもたち

(平成29年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰で、環境大臣賞受賞)

## 龍郷町立龍郷小学校

毎年10月に「アサギマダラ」のマーキング調査を行っています。アサギマダラは、春から夏にかけて北上し、秋から冬にかけて南下する長旅を行う蝶で、マーキングすることにより寿命や移動経路、分布などを調べることができ、保護活動に役立てることができます。平成20年には石川県の宝達小学校でマーキングした蝶を龍郷小の子どもが捕獲したことをきっかけに、子どもたちの交流活動も始まりました。

全小中学校に配布された奄美の世界自然遺産普及啓発パンフレット「世界自然遺産と奄美」には、奄美の自然のよさが、たくさん掲載されています。ぜひ、理科や総合的な学習の時間で活用してください。



### シリーズ No.1

## 学び合い、高め合う教師集団 【宇検村立名柄小中学校】

学力向上に向けて「質の高い授業」づくりに取り組んでいる学校の紹介第1弾は、宇検村立名柄小中学校です。

### 1 校種を超えた研究授業・授業研究

(1) 小中全職員による校内研修体制の充実  
一人一研究授業を年間計画に位置付け、事前に授業参観の視点を明確にして、研究授業を行う。

(2) ワークショップ型授業研究の実施

授業参観で気付いたこと等を視点に沿って付箋に書き、校種を超えて全員が発言する活発な研修がなされるので、授業が多面的に分析され、改善策が協議できる。日常でも授業改善について話すことが多くなった。



ワークショップ型研修

(3) 学力個人カルテの活用

NR Tや鹿児島学習定着度調査等の各種調査結果をファイリングし、小・中学校9年間の経年変化を基に、個に応じた学習指導法を工夫改善している。

### 2 VTRを活用した授業研究(ビデオカンファレンス)

(1) 授業VTRを見ながら、子どもの言動を振り返り、必要に応じてVTRを止め、発問や指示等を分析している。VTRで授業再現できるので、具体的に深い協議になっている。



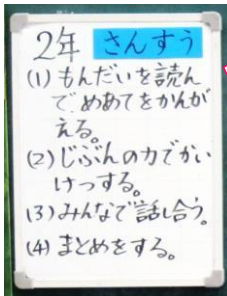
ビデオカンファレンス

(2) 教師の説明を減らし、子どもの活動や思考の時間を確保する授業改善のために、長期休業中に授業ビデオを各自で分析している。

### 特別支援学級における

## 子どもの実態に応じた指導のアイディア

学校では、子どもの障害による学習上・生活上の困難を主体的に改善・克服し、自立し、社会参加できるように、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導をしています。今回は、奄美市立朝日小学校の取組の一部を紹介します。



### 【必要な情報の提示】

学習の見通しをもつことが苦手な子どもに対しては、授業の流れ(取り組むことの順序等)をあらかじめホワイトボードに書いて、黒板上に提示することで、子どもは何をすべきか理解しながら、見通しをもって学習することができます。

### 【落ち着いて学習できる環境づくり】

周囲のことに過敏に反応する子どもに対しては、パーティションを活用することで、周囲を気にすることなく、落ち着いて学習に取り組ませることができます。



### 【視覚的な理解】

音声での指示や発問が理解できない子どもに対しては、必要な物の机上での置き方を図で表すなど、情報を目に見える形で提示することで分かりやすくなります。

